

# 鶴が丘だより

東京都町田市三輪緑山二丁目2139-1  
医療法人社団鶴水会鶴が丘ガーデンホスピタル  
院長 後藤 晶子  
電話 044(988)3121(内)

## チームリハビリの 活動報告

当院の治療プログラムは、うつ病を対象としたストレスケアプログラムと、統合失調症向けのチームリハビリがあります。  
チームリハビリは、鶴が丘の上の家族の集い「おくすり勉強会」で退院応援ミーティングの3つのプログラムを運営しています。今回はその内容と、実際に参加された方の様子や変化をお伝えします。

### へ丘の上の家族の集い



統合失調症の方のご家族を対象とした家族心理教育は、今年で5年目を迎えます。  
病气や薬、社会資源や家族の話し方について学習する講義と、ご家族同士で状況や悩みをお話しす

る懇談会の二部構成です。  
今回はこれまでに参加された約70家族の中から1つの事例を紹介いたします。

患者様は発症から30年程経つ60代の方。単身での生活は困難とのことから、姉妹の夫婦と生活を共にされていきます。患者様は病状が不安定になると、ご家族に対して中身がすり替わっている、もうなくした、たのみに、偽物が現れたなどの言動が見られ、自宅での生活が困難になり入院されました。同居していたご家族は、長い患者様との関わりの中で疲弊されてい



担当医師や看護師が参加をお誘いし、自宅での患者様の様子や、これまでの経験をお話ししたいただきました。それを聴いた他のご家族

から「患者様のできているところが、山ある」ことや、ご家族が「とても上手く工夫や対応をされていられる」との言葉が掛けられました。ご家族同士の話し合いから「患者様は何もできない」という考えを徐々に変化させ、またご家族自身も自分たちは頑張っているのだと肯定的に捉えることができたように思いました。

その後、患者様の「できる力」とご家族自身の「できる事」に気づき、患者様への接し方が変化していき、全4回の最終回を迎えた時には、退院された患者様との生活を笑顔で語り、「患者様が「できる」とも涙山発見できた」と話されました。

へ丘の上の家族の集いでは、スタッフが主体となるのではなく、セルフヘルプというご家族同士が助け合うことに重点が置かれます。医療スタッフが支援するだけでなく、ご家族同士が支え合うことで、効果はとて有効です。それは「同じような境遇で共に苦勞を重ねたご家族同士だからこそ伝わるのだ」と思います。ご家族が「また明日からの生活を頑張ろう」と思えるような機会を今後も提供していきたいと思っております。

へおくすり勉強会

4A病棟・B病棟の患者様を対象に、事前面接・6回のプログラム・事後面接の8回ノックルで、対象者を限定し、60名程度の少人数で行っています。

プログラムを始め、3年が経ち、長期入院していた方が自己管理で服薬を始めたリ、自己服薬を始め、たこと、退院意欲が向上したりしています。



「印象に残ったケース」

発症から30年程経つ40代後半の方。事前面接では「入院した理由がわからないうちに薬も副作用が出るから止めたい」と話していましたが、6回のプログラムでは、体調を崩すこともありました。このプログラムの後は出ようかと頑張ら

時間になるとホールドで待っている姿が印象的でした。事後面接をした時には「薬の必要性や効き目が分かった」と話されるようになりました。薬に対する知識と理解度も上がり、真面目に取り組んで下さった結果が生まれました。

へ退院応援ミーティング

B病棟の患者様を対象に、病気や薬、社会資源や制度の活用方法などを継続的に学び、生活習慣の見直し、退院に向けての意欲の向上と、情報提供を目的に行っています。

- 退院応援ミーティング予定
- I. 病室について(医師より)
- II. 薬について(薬剤師より)
- III. 食生活(栄養士より)・管理栄養士より
- IV. 社会資源(ケアについて)・精神保健福祉士より
- V. グループホーム・住居について
- VI. グループホーム(食卓)



患者様からは「病気について新しい知識が増えた」「副作用について学ぶことができた」という声が聴かれます。また「薬について」も

の知りたいたいレディケア・グループホームを見学したい等、患者様が退院に向けて新しく知りたいたいこと、やりたいたいことが意見として出てきました。さらに退院したときの心配事として「お金のこと」「住むところ」「食事」「相談相手がいらないこと」など、不安な気持ちも伝わる機会にもなっています。今後、講義だけでなく、地域の施設見学会を実施予定です。退院後の生活をイメージし、知識を身に付け、心配や不安の解消の手助けになるように支援を行ってまいります。

各プログラムに関するお問い合わせは主治医または看護師へおたずねください。へ文責：飯田・田原・久保田

お断り  
掲載した事例は当該者の承認を得ております。

黒板  
秋らしくなつて、朝夕が肌寒くなつてきました。体調に気をつけながらお過ごしください。  
(編集委員 一同)